

## 鷺畑山1号墳第3次発掘調査報告 東北日本海側の古墳文化を探るシンポジウム 気軽に参加をと呼びかけ

東田川文化記念館・藤島郷土研究サークル (大井茂会長) は、鷺畑山1号墳の発掘調査を、鶴岡市と考古学研究者の協力をえて、2013年から昨年まで3次にわたって実施し、墳丘を残す庄内唯一の古墳であることなどの成果をあげました。



・鷺畑山1号墳から探る 小野 忍 (鷺畑山1号墳発掘調査員)  
・城の山古墳から探る 水澤幸一 (新潟県胎内市教育委員会)  
・秋田県宮崎遺跡の解明 高木秀一郎 (宮崎遺跡を解明する会)

そこで、同サークル主催で、隣県の新潟・秋田両県の研究者を招き、標記の会を下記のように開催します。

③ コメント・質疑討論  
コメンテーター 佐藤庄一 (山形県考古学会) 阿部明彦 (同) 志田純子 (鷺畑山1号墳発掘調査員)

④ 閉会挨拶 (まとめ) 佐藤 禎宏 (鷺畑山1

### 昭和も遠く③ 「脱出」

中町 成澤 功

2016年3月5日 (土) 12時〜15時30分

1、日時  
2、場所  
3、内容

東田川文化記念館・明治ホール

① 開会挨拶 (東北日本海側古墳文化の概略) 川崎利夫 (鷺畑山1号墳発掘調査員)  
② ハネラー報告



1940 (昭和15)年7月18日朝6時少し前、リトアニアのカウナス領事館公邸の寝室の窓際に突然100人もの人だかりが出来た。領事館に向かって口々に何か訴えているようだ。ポーランドから越境してきたユダヤ人たちまち200人に増えた。ナチスのユダヤ人狩りを避けることのできる国はもはやヨーロッパには無い。ソ連日本を經由して安全な第三国に脱出するしかない。そのため日本通過ビザを手に入れよう



外交官時代の杉原 (ウイキペディアより)

と日本領事館に押し付けてきたのだ。

領事・杉原千畝 (1900 (明治33)年〜1986 (昭和61)年) は日本外務省に請願電報を打った。

「ユダヤ人の要望を人道に拒否できない。ビザ発給を認めてくれ。」

## 私の昭和

17

鈴木重雄 (88歳・八色木)

### 温飯器

小学校2、3年のころまで教室の暖房は木炭であった。1畳四方位の四角の火鉢に木炭を積み上げ、トドマ (用務員) が長い鍋づるのついた鉄鍋に赤く燃えた火種を入れて各教室を回っていた。教室に1つ (大きい教室は2つ) の火鉢があるから、後ろの席まで温まるまで時間がかかった。先生は後列の生徒を火鉢のまわりに交代で暖をとらせてくれている。

昼食時に自分の弁当が分からなくなつて、おにぎりを割つて中を確かめたり、弁当箱を開けてたしかめた。弁当を持って皆で一緒に食べるのが楽しかった。昭和35年給食調理室が完成し、脱脂粉乳が給与された。ご飯持参の給食となり、同じ給食ができるようになった。私たちが子どもの頃は、おかずがどうのこうのと言つても、弁当そのものが持つてこられない子どももいたのである。学校給食はその貧しさからの解放であった。

本省から2度とも拒否の返事。「ビザ駄目の姿勢をつらぬけば本省からは褒められるだろうが、浅慮、無責任、我無者らの日本の軍人グループの対ナチ協調によって全世界に隠然たる勢力を擁するユダヤ民族から永遠の恨みを買うことになるだろう。日本の国益に叶うこととどうなのか。」杉原は官になびかず民にいた。流浪の難民ユダヤ人についた。同年7月29日

最後の証明書は動き出した列車の窓から渡し、目的地ベルリンへ向かったのである。6千枚の杉原ビザによつて6千人のユダヤ人の命が救われたのである。

# 「忘れてならない歴史」

(新町 齋藤留治)



アメリカ兵が描いた絵



フィリピン戦没者慰霊碑

ところが部屋の外に出ようとしたりドアが開かない。「是は困ったことになった。」と焦っていたら制服を着たドでかい空港関係者が来て、「ここはマニラ行き

になって同法案の審議・可決こそ思いを深くした。提案理由を、安倍政権のもとで、小渕優子

道」を使って多額のカネを集めた。11年〜14年分で総額5億700万円余、内訳が支部への企業・団体献金1億6600万円余、パーティー券収入3億4000万円余である。

先日、天皇后陛下

たがわ九条の会発行・

下がフィリピンを訪問し、戦争犠牲者への哀悼と平和を祈って頭を垂れる姿をテレビで見

ても金は無いし、乗る成田行きの飛行機の時間

「抜け道」になつてい

小池晃共産党政策委員

ていて、日本人として決して忘れてならない歴史が太平洋上にある

負の歴史を消し去ろうとするでは大違い。

政党支部への企業・団体献金の禁止などとしている。

と可決を望みたい。

事をも改めて痛感させられた。南半球の地に向かう

人を脅かすなど睨みつけてやったらバイバイと手を振られてしまった。

時は南太平洋の島々の上を飛んで行くが、夜

『民報藤島』や『新つるあか』の記事で、三

先の方で「緊急事態

ませんでしたか。最初から喧嘩調子に聞こえたのは俺だけだったでしょうか。

間に飛ぶと飛行機の下には何事も無かったように灯りが見える。

拒否する鶴岡市の問題が良くわかったこの声が寄せられています。

▲選挙期間中に大災害やテロがあったとき、

▲反対するなら対案を示せと。でも、何を言っても聞く耳持たんで

な所まで兵隊として連れてこられたのか、と思

で「平成大合併の失敗」が明らかになり、「あせり」から、いろいろな

▲このこと自体はウソではないのだが、問題

では、なにか説明しましたか。憲法で定め

私は再び機内の人となつて北の故郷へ帰る

出発まで少し余裕があったのでターミナル

▲首相が権力を一人で握り日本を何処にもつ

▲これが大政党のオゴリと言つもの。こんな

明日の行方も分からない兵隊達はどんな思い

甘利前大臣疑惑で再び「政治とカネ」

▲しかし、この頃首相は、嫌にこのことに力

▲というわけで、あの新聞は、憲法を変える

## 現金受け取り認める

安倍首相の責任は重大



辞任で幕引き許されない

山下書記局長 解明へ国会招致を

## 甘利担当が辞任

山下書記局長 解明へ国会招致を

しんぶん赤旗1月29日付



真実を伝え ハッキリもの言う

『赤旗日刊紙』をぜひどうぞ(月3497円)

(石川)